泌尿器科学

担当指導医師

●<u>本院</u>

教　授：小原　航、阿部　貴弥
准教授：杉村　淳
講　師：兼平　貢、加藤　廉平、前川　滋克
特任講師：五十嵐　大樹
助　教：塩見　叡、井藤　綾人、阿部　正和
任期付き助教：荒川　夢香
非常勤講師：小島　祥敬

<u>学修方針（実習概要等）：</u>

1. 担当指導医のもと準担当医として実際の診療に携わる。すなわちクリニカルクラークシップ形態により実習を行う。
2. これまでの診療見学型実習をふまえ、より臨床に即した実践的な内容（診療参加型）となる。具体的には、学力や能力により、患者さんに対する問診・診察・検査・手術等を分担する。
3. 実習に際しては、診療チームの一員となることを即座に認識し、医師や medical staff との協調をはかりながら、積極的に診療に参加する。また、当科臨床実習に参加している 4・5 年生にも、経験を元にした助言と指導を行う。
4. 患者さんやその家族に接する際には、相互の信頼関係を確立するよう努める。なお、医の倫理を十分にわきまえ、自己判断での行動は慎むよう注意する。
5. 日常診療の変遷や研究面での最新の話題をも広く吸収し、泌尿器科学の現状や特色を自分なりに的確に把握する。
6. 特定の分野について重点的に実習することを希望する場合は、予めその旨を進言する。
7. 将来医師になる身として、現在自分に足りない面や自分の適正等を、実習を通して自問自答することも重要である。

<u>教育成果（アウトカム）：</u>

副腎・腎・尿路疾患および男性生殖器の障害を有する患者に医療の一員として診療に参加し、接することで泌尿器科疾患の特徴や症候の知識を整理する。また患者に対して正しく対応し治療するために、基本的医療面接・診察・検査・診断・治療法を修得すると共にチーム医療における協調性やリーダーシップを養う。さらに、患者を全人的に理解し評価することで、治癒あるいは生活の質を改善するための総合的な対処法の修得に到達する。

（ディプロマポリシー：1,2,3,4,5,7）

<u>到達目標（SBOs）：</u>

1. 医療面接においては、泌尿器疾患の特殊性と患者の羞恥心に留意して患者に接しつつ対話を行い、適切に病歴を聴取することができる。
2. 必要な基本的診察手技を実施もしくは指導医の診察の介助を行うことができる。
3. 基本的診察によって得られた所見より、適切な検査を立案し、その検査の必要性、意義を説明できる。

4. 検体検査、画像検査の所見を理解し、さらに泌尿器学的検査を見学また介助をして、その原理と結果を理解し、診断ができる。
5. 診断をした上で、患者背景を考慮した治療方針をたてることができる。
6. Student doctor としての役割を自覚することによって、医行為基準に示された処置、治療の実施もしくは介助を行うことができる。
7. 回診やカンファランスに参加し、疾患の治療計画や予後について、プレゼンテーションし、議論することができる。
8. ポートフォリオを記載し、担当した患者の疾患や関連ある疾患について文献を検索し、病態についての記述と考察ができる。

実習内容：

1. 病棟実習

実習期間を通し、各入院担当チームのいずれかに配属し、可能な範囲でチームと診療行動を共にする。回診、処置、検査、手術など主治医が行う医療行為に実際に携わり、侵襲性の低い医療行為（創部消毒、ガーゼ交換、導尿、抜糸、手術助手、静脈採血、尿流量検査、膀胱洗浄等）を主治医の指導監視の元で行う。さらに尿路性器腫瘍、尿路結石、尿路性器奇形、副腎疾患、腎不全、尿路感染症等の主要疾患から、受け持ち患者の内の一人についてレポートを作成し、各クールの最終週のいずれかの日にグループ内で発表し討論に参加する。また、症例検討会（週１回）、画像診断カンファランス（週１回）などにも参加する。

2. 外来実習

担当指導医の外来診療日に、新患外来予診の他、外来での処置、検査（尿沈渣、検鏡、膀胱鏡、精液検査、超音波検査、X 線検査、ストーマケア）の助手を受け持つ。

3. 透析室実習

急性、慢性腎不全の病態と透析療法の原理を理解し、血液透析の実際を経験する。指導医のもとで、急性例では透析用カテーテル挿入の介助、慢性例では内シャントへの穿刺を行う。

4. その他

関連各科との合同カンファレンスや、学内外の研究会、学会にも機会があれば参加する。また当科における実験や研究についても希望により参加する。

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	個数	使用目的
診断用機械	尿路性器模型	2	診察に際する解剖構造を把握する。
診断用機械	前立腺直腸診模型	4	診察の所見採取に役立てる。
診断用機械	パソコン・デジタルカメラ	2	検査データ・教材を提示する。
診断用機械	光学顕微鏡	1	病理組織所見を検証する。
診断用機械	ペンライト	—	陰嚢透光検査に用いる。。
診断用機械	聴診器	—	腹部・シャント等血管雑音を聴取する。
診断用機械	検尿・遠心分離装置	1	尿一般検査・沈渣材料の作成法を学ぶ。
診断用機械	超音波診断装置	3	泌尿器超音波診断・検査法の実際を学ぶ。
診断用機械	X 線診断装置	2	尿路 X 線検査の実際を学ぶ。
診断用機械	尿路内視鏡	8	尿路内視鏡検査の実際を学ぶ。
診断用機械	手術用内視鏡	3	尿路内視鏡手術の実際を学ぶ。
診断用機械	内視鏡用モニター	3	内視鏡検査・手術の見学に活用する。
診断用機械	尿流動態測定装置	2	尿流動態学の実際を学ぶ。
診断用機械	陰茎径硬度測定装置	1	勃起不全の分類を把握する。
診断用機械	生検用自動穿刺装置	2	安全な生検検査法を学ぶ。
診断用機械	腹腔鏡	1	泌尿器腹腔鏡手術の実際を学ぶ。
診断用機械	体外衝撃波結石破砕装置	1	尿路結石症治療の実際を学ぶ。
診断用機械	超音波結石破砕装置	1	尿路結石症治療の実際を学ぶ。
診断用機械	血液浄化透析装置	8	血液浄化透析法の実際を学ぶ。
診断用機械	腹膜透析装置	2	腹膜透析法の実際を学ぶ。
診断用機械	臓器移植用機器	1	臓器提供・移植の実際を学ぶ。
診断用機械	密封小線源刺入装置	1	小線源治療の実際を学ぶ
視聴覚用機械	膀胱用超音波画像診断装置　ブラッダースキャンシステム（BVI6100）	—	臨床実習における症例検討
視聴覚用機械	ノートパソコン（Let’s note）	1	講義・臨床実習の資料作成
その他	カラーデジタル複合機（iRC3580F）	—	講義資料・試験問題の作成